



7.13
岐阜県図書館
多目的ホール

近くば寄ってMKE

映画は、映像と音が織りなす、すてきなファンタジー。
バラエティに富んだ自主映画を16本集めました。
夏の一日、みんなで岐阜県図書館に集まって、
大きなスクリーンで、大笑いして、ゾーっとして、
ジーンとしびれましょう。
だ・か・ら、近くば寄って
「みてくれたっていいじゃない！」

The 11th Mite Kuretatte 'E' ja-nai Cinema Festival



公式HP : <http://www.mke-cf.info/>

twitter : https://twitter.com/MKE_CinemaFes

facebook : <https://www.facebook.com/mkecinemas/>

ノミネート作品 (上映順)



①内部告白

監督：坂本 直季 (13分/2023年)
社内情報漏洩を疑われ半強制的に自宅謹慎を命ぜられた男に、内部から更なる告白が忍び寄る…



②さんすうのもんだい

監督：伊藤 啓太 (8分/2023年)
ロマンスとさんすう。
ごめんを言いたい夜は、甘口のカレーを作ります。
たかし君とひろし君、そしてともさんのお話です。
それではご覧下さい。



③FAAAWWW!!!

監督：鬼木 幸治 (9分/2022年)
河原に佇む二人のチンピラ。ゴルファー姿の異様な男。
長閑な風景の中で繰り広げられる奇妙な対峙。
やがて、「ファー！」のかけ声と共にチンピラたちの運命は、あらぬ方向へと導かれていく。



④電話のあいて

監督：高上 雄太 (12分/2024年)
亡き母の遺品であるスマホから母の声が聞こえ、
悲しみから抜け出せない息子はその声にのめり込んでいく。
スマホが霊界とを繋ぐホラー作品。



⑤チカチカシグナル

監督：岡本 崇 (9分/2024年)
なんでもなく普通に普通な日常を送る少女と青年。
ある日少女は青年に半強引に送り出され1人外出をする。
外の世界に目を輝かせる少女と時間を気にする青年。
そんな2人には誰も知らない秘密があって…



⑥OHM

監督：ハヤト丸 (15分/2019年)
世界各地を襲った悲劇から23年…
いつかまたこの日が来ることはわかっていた。
それぞれ違う思惑を持って集まりし戦士たち…
そう、前回と違い今度は“準備”が出来ている。
迎え撃つ側となった戦いの行方は!?



⑦スマホの中のエイリアン

監督：川中 玄貴 (20分/2024年)
ある日、アイのスマホに見慣れないアプリがインストールされていた。それは今流行りのAIアプリだった。
しばらく使っているとAIアプリは突然自分から話しかけてくる。
そして自分は地球外生命体だと言いだした。



⑧融解セヨ思考

監督：武子 直樹 (16分/2023年)
興味本位でSMの女王様を呼んだ30過ぎの男。
期待していた官能的なプレイとは違う方向に…
青春の後始末がいつまでもできない男の小さくも卑しい悲哀物語。



⑨話しかけてなんかあげない。

監督：繁田 健治 (10分/2023年)
吉住は数十年ぶりに同級生のひとみと再会。
その時、彼女の姿はあの頃のままだった…



⑩放課後の怪物

監督：MATSUMO (9分/2024年)
朝礼での校長先生のお話。
「放課後の校舎にはおぼけが出来ます」との脅しのような言葉が…



⑪双翅軍雷攻

監督：塩原 颯 (5分/2023年)
街のクリーン政策に対抗すべく、害虫連合は中心店舗への攻撃を開始した。作戦は双翅軍(つまりハエども)に一任されたが、しょせん虫ケラのやることなので先は読めなかった!
マイクロなスケールで描く短編航空戦記。



⑫年齢を重ねると何かが変わる

監督：ひがし 沙優 (5分/2023年)
年齢を重ねていくと家族それぞれに何かしらの変化が出てくる。
父と母と娘、その変化は三者三様、全く違うものだった。



⑬我にもあらず

監督：橋本 英樹 (18分/2023年)
天野ひなたはこのところツイてない。
勤め先は莫大な量の仕事をさせてくれるし、直属の上司はヤな奴だ。地味にささやかに暮らしたいけど、なんで日本はこんなに生きづらいんだ! と思っていたその時……



⑭湖の底から見る風景

監督：森 実知子 (14分/2022年)
無知の罪は許されるのか。人間は愚かな過ちを犯す。
閉じ込められた空間で観客は静かな目撃者となり、
静かな恐怖を感じるだろう。
あなたに'好都合'な人が現れたら、自らの行いを振り返ってみる事をお勧めする。



⑮your eyes

監督：tama-style (3分/2020年)
雪国を離れ上京した18歳の頃、東京から思い出すのは舞い散る雪と地元を代表する山の景色でした。
故郷への郷愁を映像に込めました。
歳を重ねると忘れてしまう、あの頃の気持ちを共感して頂けたら幸いです。



⑯最後の生活

監督：渡邊 高章 (20分/2022年)
父を亡くしてから学校へ行かなくなった小学生の春陽は母の秋と二人暮らし。秋は自身の仕事を続けるために小説家の兄を呼び、春陽の面倒を見てもらうことにする。
春陽と「おじさん」の心の交流を描いたある夏の物語。

注) プログラムは都合により変更する場合があります。



チケット

◎開催協力金：500円 (当日のみ・自由席・入退場自由)

◎予約問合せ：MKE映画祭事務局

メール) お名前と枚数を記入し info@mke-cf.info へ
送信してください。確認メールを返信します。

・◎コロナ感染予防のため、ご協力をお願いします。
詳細はホームページをご覧ください。

・映画祭実行委員を募集しています。一緒に映画祭を創りましょう。

会場アクセス

なるべく公共交通機関をご利用下さい。

■JR西岐阜駅(南口)より

トバスで… 西ぎふ・くるくるバスに乗りし、
| 『県図書館・美術館』バス停下車して すぐ
↳徒歩なら… 14分

■名鉄岐阜駅・JR岐阜駅より

トバスで… 岐阜バス「鏡島市橋線」の「市橋」行に乗りし、
『県美術館』バス停下車して 徒歩3分
駐車場 無料 442台 ※閉鎖時刻にご注意下さい。

2024年7月13日(土)

開場 10:45 開演 11:00 終演予定 16:30

岐阜県図書館 多目的ホール (岐阜市宇佐 4-2-1)
第11回 MKE(みてくれたっていいじゃない) 映画祭

主催：MKE映画祭実行委員会

後援：岐阜市、中日新聞社、FM Gifu、シーシーエヌ株式会社

協賛：有限会社ステップ、鯛焼きの福丸、喫茶 星時、ジャパンランタン

協力：シネマスコール

illustration : Kastuo Kikuchi

MKE Cinema Festival 11th